



サンタはほんとうにいるの

聖人ニコラスの別名がサンタクロースに

クリスマスは、イエス・キリストの誕生を記念する祝日です。サンタクロースという名は、4世紀の初めに、キリスト教の聖人であったニコラスの別名、サンテ・クラスからきています。ニコラスは、教会の世界でももっとも有名な聖人になり、教会や広場、道ばたには多くの像が建てられました。

ニコラスは多くの困った人々を助けてました。中には、貧しくて行くところがなくなった3人のむすめたちを救うために、3日3晩、夜中にこっそり金袋を投げ入れてやり、むすめたちを救ってやったなどの話が、たくさんあります。

これらのことから、19世紀になって、ニコラスが子どもにおくり物をする、サンタクロースとしてのイメージが、できあがったようです。

国によってことなるサンタのイメージ

このサンタクロースは、クリスマスの夜、気づかれないようにおくり物をする、といわれています。気づかれないようにするために、だれにも見られないようにして、家の中に入るときは、えんとつの中を通ってくるといわれています。

しかし、くつ下の中には、プレゼントが入っているのですから、サンタがいないとはいえないようです。サンタクロースはひげの老人で、雪の夜にトナカイに乗ってくるといわれますが、ヨーロッパの国の中には、白馬やロバ、シカに乗ってくるといわれているところもあります。(監修・保岡 孝之)

